

第17回国際抗老化再生医療学会学術大会

17th Academic Conference World Academy of Anti-Aging & Regenerative Medicine

抄録集・プログラム



第**17**回

国際抗老化再生医療学会 学術大会

テーマ：

間葉系幹細胞治療の臨床応用

📅 日時：2026年**11**月**29**日(日) 10:30~16:30

📍 会場：東京国際フォーラム **D5**

懇親会 16:30~17:30

講演会場前 ブース展示エリア

主催：



一般社団法人
国際抗老化再生医療学会
World Academy of Anti-aging & Regenerative Medicine

共催：



一般社団法人
予防医療研究協会
Preventive Care and The Health Coach Revolution



celution という選択

celution は、患者様の脂肪組織から高純度の幹細胞群（ADRCs）を迅速かつ安全に抽出するシステム。
患者様ご自身の新鮮な細胞を用いることで、再生医療における新たな治療の可能性を広げます。

ADRセラピューティクス株式会社
東京都千代田区麹町2-3-3 FDC麹町ビル
<https://adr.co.jp/adr-therapeutics/>

ご挨拶

2026年11月29日（日）に東京国際フォーラムにおきまして、「第17回国際抗老化再生医療学会学術大会」を開催いたします。

また、本学術大会は一般社団法人予防医療研究協会との共催により実施いたします。

本学術大会では、間葉系幹細胞および幹細胞培養上清液を用いた治療をテーマとした講演を予定しております。

当日は、抗老化医療・再生医療に携わる医師や医療従事者をはじめ、健康・予防医療分野に関心を有する多くの方々の参加を予定しております。

今後、再生医療および抗老化再生医学の健全な進歩・発展に、さらなる寄与をしてまいり所存です。

末筆ながら、皆様のますますのご発展を心よりお祈り申し上げます。

会頭 佐藤 茂



東京国際フォーラム D5



東京都千代田区丸の内3丁目5番1号

JR

有楽町駅 徒歩1分

東京駅 徒歩5分

(京葉線東京駅とB1F地下コンコースにて連絡)

地下鉄

有楽町線 有楽町駅(B1F地下コンコースにて連絡)

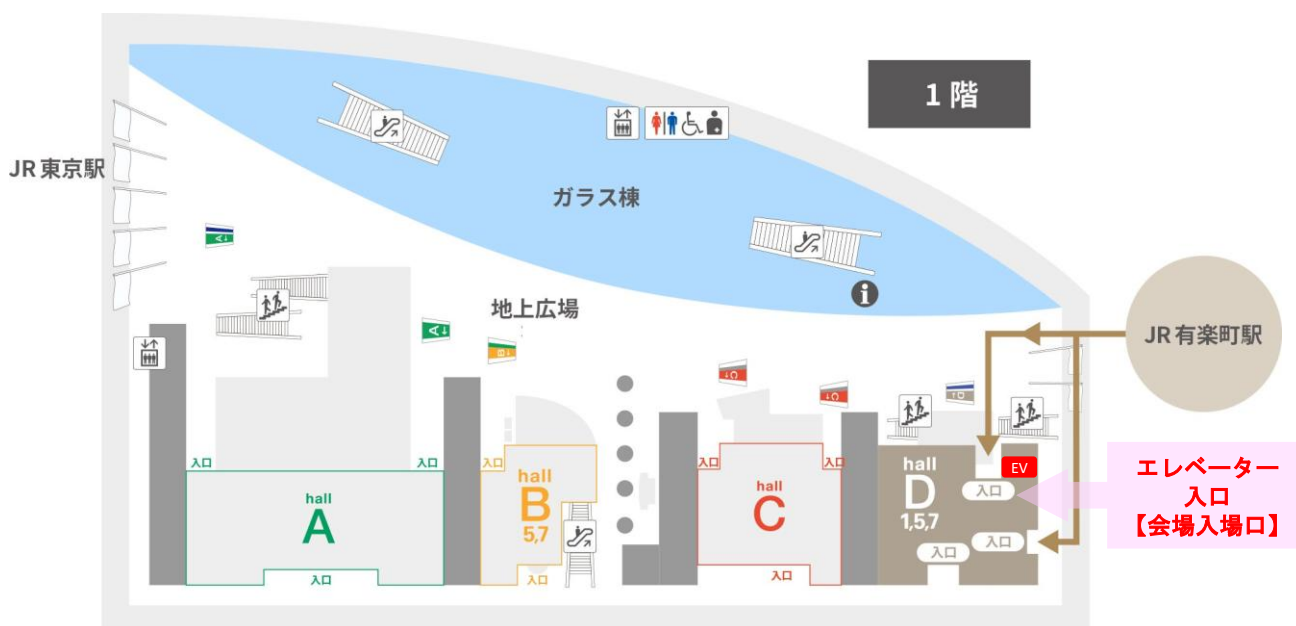
千代田線 二重橋前駅より徒歩5分

丸ノ内線 銀座駅より徒歩5分

銀座線 銀座駅より徒歩7分/京橋駅より徒歩7分

三田線 日比谷駅より徒歩5分

JR有楽町駅からホールD5への行き方



JR有楽町駅「国際フォーラム口」へ出ます。

改札を出たら右折、前の横断歩道を渡ります。左がホール棟、右がガラス棟です。

ホール棟Dブロック内施設までの行き方は以下の2通りあります。

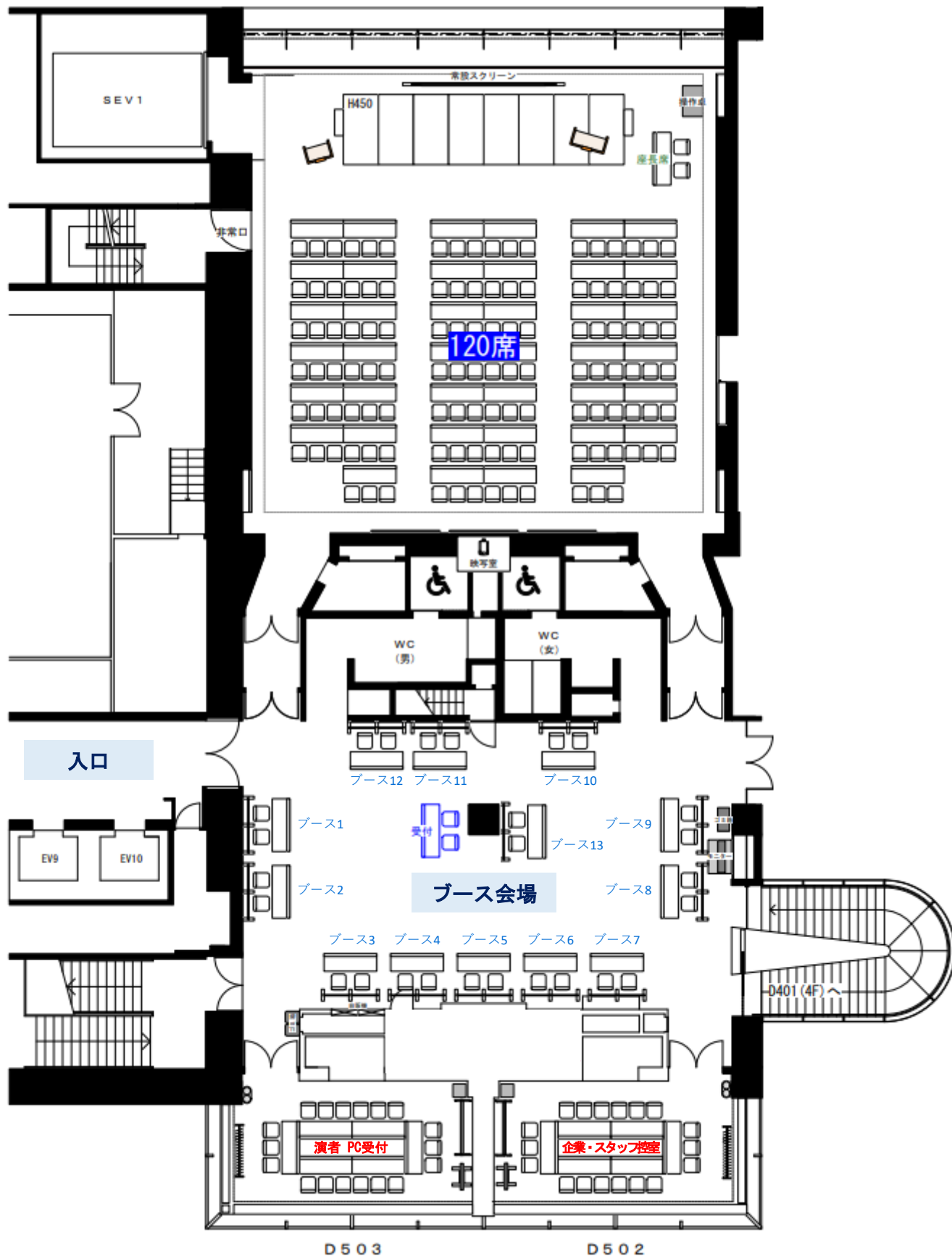
第1のルート：ホール棟の敷地手前を左折し、ホール棟を右に見ながら直進すると右がホール棟Dブロックの入口（円柱形ドア）です。

第2のルート：横断歩道を渡ると左手すぐにあるのがホール棟Dブロックの入口です。ホールD5は5階です。エレベーターで5階へあがってください。



東京国際フォーラム D5

Dブロック 5階 | A4サイズの場合 1/212.1



- 大きなお荷物は、スタッフ控室にてお預かりスペースをご用意しております。ただし、貴重品を含むお荷物の管理はご自身の責任にてお願いいたします。
- D棟1階にコインロッカーがございますので、ご利用ください。

午前PROGRAM | 10:30 — 13:30

	演者	演題名	座長
10:00	開場		
10:30	会頭 佐藤 茂	開会挨拶	
10:35	医療法人社団啓神会M再生クリニック 院長 飯塚 翠	Precision Regenerative Medicine ～幹細胞治療は次の時代へ～	東京慈恵会医科大学総合医科学研究センター再生医学研究部 准教授 太田 裕貴
10:50	医療法人インテグレス 理事長 伊勢呂 哲也	ED・糖尿病・慢性腎臓病に対する自己脂肪由来 幹細胞治療の効果と安全性について	東京慈恵会医科大学総合医科学研究センター再生医学研究部 准教授 太田 裕貴
11:05	膝の痛み専門 大阪梅田セルクリニック 院長 保田 真吾	再生医療で理想の膝治療を目指す 自由診療クリ ニックの取り組み	東京慈恵会医科大学総合医科学研究センター再生医学研究部 准教授 太田 裕貴
11:20	表参道総合医療クリニック 院長 田中 聡	椎間板性腰痛に対する再生医療の実臨床 —間葉系幹細胞、PRP、培養上清液の特性と患 者選択—	東京慈恵会医科大学総合医科学研究センター再生医学研究部 准教授 太田 裕貴
11:35	あいちせぼね病院 理事長 伊藤 不二夫	腰椎椎間板ヘルニアに対するiPS細胞抽出液 (iPSF) 椎間板内投与の臨床効果	東京慈恵会医科大学総合医科学研究センター再生医学研究部 准教授 太田 裕貴
11:50	休憩		
12:20 ランチョン セミナー	医療法人社団東京 D タワーホスピタル 理事長 手取屋 岳夫	心臓外科医として挑む再生医療 —自己脂肪由来再生細胞治療の実践—	東京慈恵会医科大学総合医科学研究センター再生医学研究部 准教授 太田 裕貴
12:50 企業 セミナー	ADRセラピューティクス株式会社	セルーションシステムにおける脂肪組織由来再生 (幹) 細胞 (ADRC s) の調製	
13:10 企業 セミナー	株式会社エー・アイ・システムプロダクト 工学博士 岡島 儀尚	高機能還元性イオン水S-100による生体への 有効性	
13:30	休憩		

午後PROGRAM 14:00 — 16:30		懇親会 16:30 — 17:30	
	演者	演題名	座長
14:00	医療法人社団真健会 表参道若林歯科医院 理事長 若林 健史	口腔から始める抗老化 — 歯周病コントロールが健康寿命を支える —	医療法人社団研裕会 理事長 紀尾井町プラザクリニック歯科・ 美容外科院長 根深 研一
14:15	医療法人社団祥和会 理事長 服部 康治	自己間葉系幹細胞による歯周病治療における 臨床的効果	医療法人社団研裕会 理事長 紀尾井町プラザクリニック歯科・ 美容外科院長 根深 研一
14:30	諸隈歯科医院 院長 諸隈 正和	根未完成歯、失活歯および移植歯に対する 歯髄再生治療の臨床応用と経過報告	医療法人社団研裕会 理事長 紀尾井町プラザクリニック歯科・ 美容外科院長 根深 研一
14:45	休憩		
15:15	新横浜かとうクリニック 院長 加藤 洋一	がん細胞治療30年から再生医療へ — 安全性の考え方と幹細胞培養上清治療の理論 ・ 臨床経験 —	国際抗老化再生医療学会 理事長 佐藤 茂
15:30	ひとのわメディカル 院長 瀬田 康弘	歯髄幹細胞培養上清液による再生医療の実践 — ALS前向き臨床研究と実臨床経験から得られ た知見 —	国際抗老化再生医療学会 理事長 佐藤 茂
15:45	医療法人社団愛生館ホルムクリニック 院長 森田 祐二	MSC（間葉系幹細胞）セクレトーム点鼻の 有用性と安全性の検証 — アレルギー性鼻炎、顔面神経麻痺、認知症、 II型糖尿病 —	国際抗老化再生医療学会 理事長 佐藤 茂
16:00	株式会社医道メディカル 代表取締役 陰山 泰成	医科歯科連携再生医療での認知症治療の将来性	国際抗老化再生医療学会 理事長 佐藤 茂
16:15	医療法人健真会城本クリニック 特別指導医 田中 真輔	脂肪移植による抗加齢医療・美容医療の未来	順天堂大学医学部 病院管理学 非常勤講師 さかえクリニック 院長 末武 信宏
16:30	執行理事 劉 効蘭	閉会挨拶	
16:30	懇親会（学術大会参加者はどなたでもご参加ください ※無料）		
17:30	終了		

※ 掲載内容・座長等は変更となる場合があります。

Precision Regenerative Medicine －幹細胞治療は次の時代へ－

医療法人社団啓神会 M再生クリニック

院長

飯塚 翠

(Midori Meshitsuka)



【要旨】

再生医療は、組織修復を目的とした治療から、健康寿命の延伸を目指す抗老化・予防医療へと発展している。一方、同じ幹細胞治療を行っても患者ごとに治療効果が異なることが臨床上の大きな課題である。本講演では、慢性炎症、免疫機能、加齢、栄養状態など患者背景が治療効果に与える影響について概説し、「Precision Regenerative Medicine（精密再生医療）」という新たな視点を提案する。さらに、幹細胞治療を中心に、免疫細胞療法、細胞由来因子、バイオマーカー、AIなどを組み合わせた個別化再生医療の将来像について、自施設での臨床経験および大学との共同研究を踏まえて紹介する。再生医療の新たな可能性と今後の研究・産学連携の方向性について考察し、健康寿命延伸に向けた次世代再生医療の展望を示したい。

【略歴】

2008年北京大學医学部卒業後、北京大學医学部第3病院、Harvard Medical School Massachusetts General Hospita、東京大學医学部附属病院、東京女子医科大学病院、大手美容外科クリニック等を経て2019年M再生クリニックを設立する。中国と日本の医師免許を持ち、幹細胞を中心とした再生治療やがん免疫治療を行うほか医療講演やメディア出演も多数行っている。再生医療で治療した件数は約1000件、アンチエイジングは30000件を超える。

【所属学会・所属団体】

日本再生医療学会 専門医 正会員

日本美容外科学会（JSAS）正会員

日本皮膚科学会 正会員

日本先進医療医師会（JAMA）正会員

日本抗加齢医学会（JAAM）正会員



一般社団法人

国際抗老化再生医療学会
World Academy of Anti-aging & Regenerative Medicine

ED・糖尿病・慢性腎臓病に対する自己脂肪由来幹細胞治療の効果と安全性について

医療法人インテグレス
理事長
伊勢呂 哲也
(ISERO TETSUYA)



【要旨】

加齢や生活習慣病に伴う血管障害、慢性炎症、組織修復能の低下は、勃起不全（ED）、糖尿病、慢性腎臓病（CKD）の発症・進行に共通する病態基盤である。

自己脂肪由来間葉系幹細胞は、抗炎症作用、血管新生促進作用、免疫調節作用および組織修復促進作用を有し、これらの疾患に対する新たな治療選択肢として期待されている。

当クリニックグループでは、標準治療のみでは十分な改善が得られない患者を対象に、自己脂肪由来幹細胞を用いた治療を実施している。

本講演では、EDにおける勃起機能、糖尿病における血糖関連指標、CKDにおける腎機能指標の推移を中心に、治療後の臨床経過を提示する。

さらに、有害事象の発生状況や治療実施上の留意点を検討し、本治療の有効性、安全性、適応患者の選択および今後の課題について考察する。

【略歴】

2003年3月 東京学芸大学附属高等学校卒業
2009年3月 名古屋大学医学部医学科卒業
2009年4月 JAあいち豊田厚生病院初期研修医
2011年4月 JAあいち豊田厚生病院 腎臓泌尿器外科勤務（若手研究B 科研費取得）
2014年4月 医療法人仁生会高木病院勤務
2016年4月 医療法人誠高会おおたかの森病院勤務（泌尿器科入院病棟・手術体制の立ち上げ）
2019年4月 大宮エヴァグリーンクリニック理事長に就任
2021年4月 東京泌尿器科クリニック上野開設
2022年4月 池袋消化器内科・泌尿器科クリニック開設
2022年11月 銀座美容メディカルクリニック開設
2023年10月 新橋消化器内科・泌尿器科クリニック開設

【所属学会・所属団体】

一般社団法人日本泌尿器科学会



一般社団法人
国際抗老化再生医療学会
World Academy of Anti-aging & Regenerative Medicine

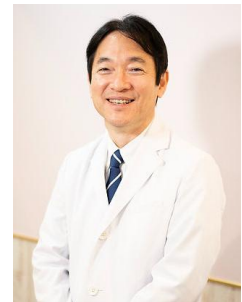
再生医療で理想の膝治療を目指す 自由診療クリニックの取り組み

膝の痛み専門 大阪梅田セルクリニック

院長

保田 真吾

(Shingo Yasuda)



【要旨】

当院は膝関節疾患を専門とし、変形性膝関節症をはじめとする膝疾患に対して、MRIによる画像診断に基づく病態評価を行い、PRP療法、培養幹細胞治療、PRP・幹細胞併用療法などの再生医療を実施している。特に、細胞培養加工施設（CPC）で培養した脂肪組織由来幹細胞を用いた治療を行い、膝再生医療に関する豊富な臨床経験を蓄積している。また、治療効果を定量的に評価し、統計解析を用いた臨床研究にも継続的に取り組み、学会で研究成果を発表している。本発表では、こうした専門的な診療体制と臨床経験を基盤として得られた研究成果に加え、膝再生医療を提供する自由診療クリニックにおける実臨床の現状についても紹介する。特に、患者の治療選択や費用負担、治療継続に関する実態など、自由診療特有の臨床上の課題についても考察する。

【略歴】

京都大学医学部大学院修了

京都大学助教授（准教授）

市立舞鶴市民病院 副院長・院長代行

国立病院機構 舞鶴医療センター 医長

公益財団法人 丹後中央病院 部長

医療法人社団活寿会 理事長 大阪ひざ関節症クリニック 院長

膝の痛み専門 大阪梅田セルクリニック 院長

【所属学会・所属団体】

日本整形外科学会

日本リウマチ学会

日本リウマチ財団

日本臨床内科医会

日本糖尿病学会

日本糖尿病協会

日本透析医学会

日本再生医療学会



一般社団法人

国際抗老化再生医療学会

World Academy of Anti-aging & Regenerative Medicine

椎間板性腰痛に対する再生医療の実臨床 —間葉系幹細胞、PRP、培養上清液の特性と患者選択—

表参道総合医療クリニック

院長

田中 聡

(SATOSHI TANAKA)



【要旨】

椎間板性腰痛は、椎間板変性に伴う細胞外基質の破綻や炎症性サイトカインの増加など、複数の病態が関与して発症する。近年、椎間板機能を温存しながら疼痛改善を目指す治療として、間葉系幹細胞、PRP、幹細胞培養上清液などを用いた再生医療が注目されている。一方、それぞれ作用機序、製剤特性、臨床エビデンス、費用および品質管理上の課題が異なり、単純な優劣では評価できない。また、画像上の椎間板変性やヘルニアが必ずしも疼痛発生源とは限らず、神経根性疼痛や椎間関節性疼痛などとの鑑別も重要である。本発表では、各治療の特徴と現在のエビデンスを比較し、画像所見、変性度、症状および神経圧迫の程度を踏まえた患者選択と治療法の使い分け、安全性、今後の課題について自験例を交えて考察する。

【略歴】

2010年03月 大阪医科大学 医学部医学科 卒業
 2010年04月 湘南鎌倉総合病院 初期研修医
 2012年04月 NTT東日本関東病院 脳神経外科
 2013年04月 湘南鎌倉総合病院 脳神経外科
 2020年04月 稲波脊椎関節病院
 2020年12月 森山記念病院 脳神経外科 脊椎脊髄外科
 2023年03月 表参道総合医療クリニック 開院

【所属学会・所属団体】

日本脳神経外科 専門医（日本脳神経外科学会認定）
 脊椎脊髄外科 専門医（日本脊椎脊髄病学会認定）
 日本脊髄外科認定医
 再生医療学会



一般社団法人

国際抗老化再生医療学会
 World Academy of Anti-aging & Regenerative Medicine

腰椎椎間板ヘルニアに対する iPS 細胞抽出液 (iPSF) 椎間板内投与の臨床効果

(全医会) あいちせぼね病院理事長
あいち再生医療センター長
世界低侵襲脊椎外科学会理事長 (WCMISST)
鄭州第一付属病院客員教授
伊藤 不二夫
(FUJIO ITO)



【要旨】

〔目的〕 腰椎椎間板ヘルニアに対する iPSF 椎間板内投与の臨床的有用性を検討した。

〔対象〕 腰下肢痛の VAS が 5 以上で、手術回避を希望した 40 例を対象とした。椎間板内ステロイド注入 20 例 (S 群)、iPSF 単独注入 10 例 (I 群)、iPSF+ステロイド注入 10 例 (I+S 群) の 3 群に分け、治療成績を比較した。なお、全例にステロイドを使用しない仙骨ブロックを 1 か月ごとに施行した。

〔方法〕 透視下に椎間板内注入を施行し、腰下肢痛 VAS を治療前、1 週後、2 週後、1 か月後、3 か月後、6 か月後、1 年後に評価した。各群における治療前からの経時的変化および各評価時点での群間差を比較検討した。

〔結果〕 S 群は 1 週後に改善したが、その後効果は減弱した。I 群は 2 週以降、徐々に改善した。I+S 群は 1 週後から持続的に改善し、群間比較でも多くの時点で良好であった。

〔結論〕 S 群は早期効果、I 群は遅発性の中長期効果を示した。I+S 群は早期から中長期まで最も良好な治療効果を示した。

【略歴】

名古屋大学卒、国立名古屋病院神経内科、中部労災病院整形外科医長、名古屋大学病院リハビリテーション副部長、犬山中央病院整形外科部長兼副院長、伊藤整形・内科クリニック院長、藤田保健衛生大学 脳神経外科学講座 脊椎外科客員教授、あいちスポーツ人工関節クリニック院長等々を経て現職

【所属学会・所属団体】

日本脊椎・脊髄病学会
日本整形外科学会
日本低侵襲脊椎外科学会
日本関節学会
国際抗老化再生医療学会
再生医療抗加齢学会
日本美容皮膚科学会



一般社団法人

国際抗老化再生医療学会
World Academy of Anti-aging & Regenerative Medicine

心臓外科医として挑む再生医療 —自己脂肪由来再生細胞治療の実践—

医療法人社団東京 D タワーホスピタル

理事長

手取屋 岳夫

(TEDORIYA TAKEO)



【要旨】

心臓外科医として長年外科治療に携わってきた私にとって、当然のこととはいえ「再生医療」は、治療コンセプトがこれまでの診療と根本的に全く別の「医療」です。本講演では、現在もお心臓手術に明け暮れている外科医が、自己脂肪由来再生細胞治療に取り組むことになった経緯を説明し、私自身が目にする日々の臨床現場での現実を紹介します。特に、遠心分離器を用いた非培養細胞治療を実践してきた経験から、この治療の利便性・安全性とその効果を、文献的考察も交えて提示したいと思います。さらに、日常の臨床現場で一人の心臓外科医が感じる、再生細胞治療の解決すべき問題点をこの分野の専門医の方々と共有し、様々なご意見をいただくことで、私自身が次に向かうべき方向性を確かなものとし、そこに向かっていく原動力になればと考えています。

【略歴】

1987 年金沢大学医学部卒業、92 年同大大学院卒業。95 年ドイツ・ベルリン心臓センター、成人心臓外科・人工心臓植え込みを中心とした心不全外科を経験。00 年オーストラリア・シドニーのセントビンセント病院心臓外科・心肺移植センターにて移植治療に外科医として参加。帰国後 02 年昭和大学横浜市北部病院心臓血管センター心臓血管外科助教授、昭和大学医学部第一外科主任教授として医学教育研究にも携わる。14 年上尾中央総合病院心臓血管センターを立ち上げ、経皮的大動脈弁置換術やロボット支援下心臓手術、新しい大動脈弁再建治療を導入。22 年東京 D タワーホスピタル統括責任者。25 年 9 月医療法人社団東京 D タワーホスピタル理事長。

【所属学会・所属団体】

日本胸部外科学会(指導医)

日本心臓血管外科学会(専門医)

日本循環器学会(専門医)

日本再生医療学会

German Board Certified Cardiac Surgeon (ドイツ心臓外科専門医)

天津医科大学心臓血管センター(名誉教授/客員教授)

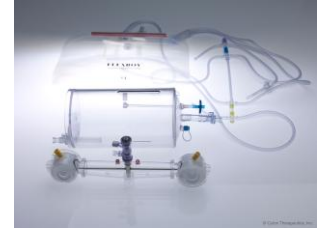


一般社団法人

国際抗老化再生医療学会
World Academy of Anti-aging & Regenerative Medicine

セルーションシステムにおける脂肪組織由来再生（幹）細胞（ADRCs）の調製

ADR セラピューティクス株式会社
ADR Therapeutics, Inc.



Celution
セルセラピーキット

【要旨】

脂肪組織は間葉系幹細胞を含む多様な細胞を豊富に含み、再生医療における有用な細胞源の一つである。脂肪組織由来再生（幹）細胞（Adipose-Derived Regenerative Cells：以下ADRCs）は、間葉系幹細胞、内皮系細胞等から構成される非培養の細胞集団であり、血管新生、炎症制御、組織修復等への関与が示唆されている。

ADRセラピューティクスは、患者自身の皮下脂肪組織からADRCsを分離・濃縮する「セルーションシステム」の開発・事業化に取り組んでいる。本システムは、脂肪組織の洗浄、酵素処理、遠心分離・濃縮、細胞回収までを閉鎖系でほぼ自動的に行い、培養工程を介さずに細胞を調製できることから、汚染リスクの低減や処理工程の標準化に寄与する。

本システムを基盤とした男性腹圧性尿失禁治療用医療機器「セルーション セルセラピーキット SUI」は2022年に国内製造販売承認を取得し、今後近いうちの保険適用が予定されている。本セミナーでは、「Celution elite」の実機と「Celution セルセラピーキット」を用いて、脂肪組織を投入してからADRCsを調製するまでの処理フローと各工程の役割をデモンストレーション形式で解説する。

【沿革】

- 2002 年 11 月 サイトリ・セラピューティクス株式会社 設立。
米国 Cytori Therapeutics の日本における事業拠点として事業を開始。
- 2015 年 09 月 名古屋大学医学部附属病院を中心に、男性腹圧性尿失禁患者を対象とした非培養自己脂肪組織由来再生（幹）細胞(ADRCs)を用いる多施設共同医師主導治験を開始。
- 2018 年 11 月 セルーション セルセラピーキット 製造販売承認取得(23000BZX00357000)。
- 2020 年 07 月 サイトリ・セラピューティクスが、株式交換により現 ADR バイオメディカルホールディングスの完全子会社となる。
- 2022 年 02 月 男性腹圧性尿失禁治療用医療機器「セルーション セルセラピーキット SUI」の国内製造販売承認を取得(30400BZX00029000)。
- 2025 年 06 月 サイトリ・セラピューティクスから ADR セラピューティクス株式会社へ商号変更。



高機能還元性イオン水S-100による生体への有効性

株式会社エー・アイ・システムプロダクト／専務取締役
明治薬科大学／客員講師
博士（工学）
岡島 儀尚
(OKAJIMA YOSHINAO, Ph.D.)



【要旨】

高機能還元性イオン水S-100（S-100）とは、無機塩を豊富に含んだ水を独自の製法により高い抗酸化力が付与されたミネラルイオン水である。S-100は国内だけでなくヨーロッパにて高い有効性が認められ、パリ、マドリードなどで開催された国際展示会で賞を獲得し、国内外の化粧品、医療用途の原料として様々な製品に使用されている。本セミナーでは、これまでに得られたS-100が持つ有効性について医学、歯学、薬学の視点から紹介する。具体的には、S-100が持つビタミンACEと類似の抗酸化活性、界面活性剤を含まない界面活性作用、様々な菌、ウイルスに対する殺菌、抗ウイルス作用などをin vitroデータに基づき報告する。さらに、皮膚におけるアトピー性皮膚炎、熱創傷治癒への症例、口腔内における抗炎症作用およびインプラント治療への応用について、それぞれの有効性とその作用機序を紹介する。

【略歴】

2010年 東京大学大学院 マテリアル工学専攻 博士後期課程卒

2018年 株式会社エー・アイ・システムプロダクト

2022年 明治薬科大学 薬学部 客員研究員

2025年 明治薬科大学 薬学部 客員講師

医学／歯学／薬学／獣医学／工学の分野にて国内外の大学、研究機関と共同研究を行い、日本、中国、フランス、アメリカなどの企業と化粧品、医薬品等の製品開発の経験を持つ。

【所属学会・所属団体】

明治薬科大学セルフメデュケーション学

日本薬学会

日本生化学学会

薬物療法学会



一般社団法人

国際抗老化再生医療学会
World Academy of Anti-aging & Regenerative Medicine

口腔から始める抗老化 ー歯周病コントロールが健康寿命を支えるー

医療法人社団真健会 表参道若林歯科医院

理事長・院長

若林 健史

(Kenji Wakabayashi)



【要旨】

超高齢社会を迎えたわが国では、単なる寿命の延伸ではなく、健康寿命をいかに延ばすかが重要な課題となっている。歯周病は歯を喪失する主要な原因であると同時に、慢性的な炎症性疾患として全身の健康にも影響を及ぼすことが知られている。近年、歯周病と糖尿病、心血管疾患をはじめとする全身疾患との関連が報告され、口腔の慢性炎症を適切にコントロールすることは、抗老化医学の観点からも重要と考えられる。また、高齢期において自分の歯を維持し、十分な咀嚼機能を保つことは、良好な栄養摂取や社会生活を支え、QOLの維持にもつながる。本講演では、歯周病の発症・進行のメカニズムと全身との関連を概説し、歯周基本治療、セルフケア、継続的なメンテナンスの重要性について解説する。さらに、健康寿命の延伸という視点から、抗老化医療における歯科・口腔管理の役割について考察する。

【略歴】

1982年、日本大学松戸歯学部卒業。歯学博士。

1989年、東京都渋谷区代官山にて若林歯科医院を開業。

その後、恵比寿を経て、2024年に表参道へ移転し「表参道若林歯科医院」を開業。

長年にわたり歯周病治療および予防歯科を中心とした臨床に従事するとともに、歯科医師・歯科衛生士の教育、学会活動、講演・執筆活動を行っている。日本大学客員教授。

【所属学会・所属団体】

日本大学客員教授

日本歯周病学会 理事・歯周病専門医・指導医

日本臨床歯周病学会 認定医・指導医

アンチエイジング歯科学会 常任理事・認定医



一般社団法人

国際抗老化再生医療学会

World Academy of Anti-aging & Regenerative Medicine

自己間葉系幹細胞による歯周病治療における臨床的効果

医療法人祥和会 はっとり歯科医院
理事長
服部 康治
(KOJI HATTORI)



【要旨】

演者は令和6年に歯周病領域における再生医療等提供計画(第二種)の認定を受け、内科医と連携し2型糖尿病合併慢性歯周炎患者を対象とした全身投与型再生医療に取り組んできた。従来、歯周病に対する局所再生医療(自家骨移植等)は一定の有効性が示される一方、口腔内環境が不良な症例では再発や効果の持続性に課題があり、外科的侵襲に伴う術後の腫脹・疼痛も避けられない。歯周病は局所疾患であると同時に全身の免疫状態と密接に関連することから、局所治療に加えて全身の免疫力を高めるアプローチが歯周組織の改善に寄与する可能性を考え、自己間葉系幹細胞点滴静注(1億個×3回)を実施した。歯周ポケット検査およびパノラマX線写真による術前後評価を行った症例10～25例において、歯周ポケット値の減少、出血量の減少、口腔乾燥感の軽減などの臨床的効果を認めたため報告する。本研究は歯周病治療における全身的アプローチの可能性を示唆するものと考ええる。

【略歴】

1986年 広島県一般開業医勤務
1987年 佐賀大学付属病院口腔外科勤務
1992年 医療法人祥和会 はっとり歯科開業

【所属学会・所属団体】

日本糖尿病協会登録歯科医
睡眠歯科外来 認定医
アメリカインプラント学会 認定医
口腔再生治療協会 理事
高濃度ビタミン 認定医



一般社団法人
国際抗老化再生医療学会
World Academy of Anti-aging & Regenerative Medicine

根未完成歯、失活歯および移植歯に対する 歯髄再生治療の臨床応用と経過報告

諸隈歯科医院

院長

諸隈 正和

(Morokuma Masakazu)



【要旨】

〔背景・目的〕

歯の喪失は咀嚼機能の低下を介してオーラルフレイルやフレイルと関連することが報告されており、歯の長期保存は口腔機能の維持に重要である。近年、歯髄由来間葉系幹細胞を用いた歯髄再生治療の臨床応用が報告されている。本報告では、異なる病態に対する歯髄再生治療の臨床経過を報告する。

〔症例〕

12歳男性の根未完成歯および29歳男性の失活歯・移植歯に対し、不要歯から採取・培養した歯髄由来間葉系幹細胞を自家移植した。経過観察中、重篤な有害事象は認められず、根尖部透過像はいずれも縮小傾向を示した。

〔考察・結論〕

既報では、ヒトにおける自家歯髄由来幹細胞移植後の安全性や、歯髄様組織形成、根発育などが報告されている。今回の症例においても良好な臨床経過が得られ、歯髄再生治療は、根未完成歯のみならず失活歯や移植歯に対する新たな歯の保存戦略となる可能性が示唆された。

【略歴】

2008年 日本大学 歯学部 卒

2013年 日本大学 大学院 歯学研究科 卒

2017年 諸隈歯科医院 継承

【所属学会・所属団体】

日本歯内療法学会

日本補綴歯科学会

日本矯正歯科学会

日本顎咬合学会

日本口腔インプラント学会



一般社団法人

国際抗老化再生医療学会

World Academy of Anti-aging & Regenerative Medicine

がん細胞治療30年から再生医療へ — 安全性の考え方と幹細胞培養上清治療の理論・臨床経験 —

新横浜かとうクリニック

院長
加藤 洋一
(Yoichi Kato)



【要旨】

LAK（活性化リンパ球治療）やDCワクチン（樹状細胞ワクチン）など、がん免疫細胞治療に約30年間携わってきた経験から、細胞を用いる医療における「有効性」と「安全性」の両立について考察する。細胞製造、出荷判定、保管・輸送、投与、投与後のフォローアップまでの一連のワークフローを概説し、製品の一貫性、力価および臨床成績を維持するために重要な工程パラメータ（CPP）と品質特性（CQA）を中心に、再生医療を安全に実施するための基本的な考え方を解説する。さらに、間葉系幹細胞が分泌するサイトカイン、成長因子、細胞外小胞（エクソソーム等）によるパラクライン作用が炎症制御、組織修復、血管新生、細胞保護の理論的背景を紹介する。実臨床で経験した症例の治療前後の変化と安全性を提示し、細胞そのものを用いる治療から細胞分泌因子を活用する治療へと広がる再生医療の可能性と今後の課題を展望する。

【略歴】

1992年	日本大学医学部卒業 医師
1999年	日本大学大学院卒業 医学博士 消化器外科医として臨床経験を積み、消化器外科専門医を取得 国立がん研究センター研究所にて、がん免疫療法・腫瘍免疫学の研究に従事
2008年	新横浜かとうクリニック開設
現在	医療法人社団 神樹会 理事長 新横浜かとうクリニック 院長 がん免疫療法、再生医療、一般内科、在宅医療などの診療に従事 特に樹状細胞ワクチン、活性化リンパ球療法（LAK）などのがん免疫細胞治療について、基礎研究から臨床応用まで継続して取り組む
2010～2018年	横浜市港北区医師会 在宅医療担当
2017年～	横浜外科医会 副会長
2018～2022年	横浜市港北区医師会 副会長
2012年より	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会 理事
2024年より	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会 副理事長
2026年より	一般社団法人かなふく総研 副理事長 がん免疫療法・再生医療に加え、地域医療、在宅医療、医療・介護連携にも取り組んでいる

【所属学会・所属団体】

日本再生医療学会
日本癌学会
日本癌治療学会
日本外科学会 等



一般社団法人
国際抗老化再生医療学会
World Academy of Anti-aging & Regenerative Medicine

歯髄幹細胞培養上清液による再生医療の実践 －ALS前向き臨床研究と実臨床経験から得られた知見－

ひとのわメディカル
院長
瀬田 康弘
(Yasuhiro Seta)



【要旨】

筋萎縮性側索硬化症（ALS）は、上位および下位運動ニューロンの選択的変性・脱落を特徴とする進行性の神経変性疾患であり、現行の治療法は限られている。

ヒト乳歯由来歯髄幹細胞由来培養上清（SHED-CM）は、分泌される生理活性物質によるパラクライン作用、cell-freeな治療アプローチとして注目されており、特に神経保護や免疫調節作用を有する可能性が報告されている。

本研究では、ALS患者8例を対象に、SHED-CM 120 mLを週1回、12週間静脈内投与し、安全性および探索的有効性を前向きに評価した。研究期間中に重篤な有害事象は認められず、本投与プロトコルにおける安全性および忍容性が示唆された。また、一部の症例では、ALSFRS-Rや呼吸機能などにおいて維持または改善を示す経過が観察された。

以上より、SHED-CM静脈内投与は、ALSに対する新たなcell-free治療アプローチとなる可能性が示唆された。我々の知る限り、本研究はALS患者を対象にSHED-CM静脈内投与を前向きに検討した初めての臨床研究である。本研究はJSCSF臨床研究審査委員会（認定番号：CRB3230001）の承認を受けて実施した（jRCTs031230731）。

【略歴】

東京慈恵会医科大学卒業。卒業後、慶應義塾大学、関連病院に勤務。

「再生医療 × 難病」を臨床テーマに掲げ、2020年に現ひとのわメディカルを設立。

ALSや脳梗塞の後遺症、認知症に対して、幹細胞培養上清液を用いた新しい治療を提供。

【所属学会・所属団体】

日本再生医療学会 再生医療認定医

歯髄幹細胞培養上清液研究会 理事長



一般社団法人

国際抗老化再生医療学会
World Academy of Anti-aging & Regenerative Medicine

MSC（間葉系幹細胞）セクレトーム点鼻の有用性と安全性の検証 —アレルギー性鼻炎、顔面神経麻痺、認知症、Ⅱ型糖尿病—

医療法人社団愛生館ホルムクリニック
北海道再生医療研究所
院長/所長
森田 祐二
(MORITA YUJI)



【要旨】

脂肪由来幹細胞セクレトーム（培養上清）点鼻の有用性と安全性につき検証した。アレルギー性鼻炎症例では、数日間の点鼻治療で自覚症状の改善と鼻汁中好酸球の消失、血中ヒスタミン値の顕著な低下とともに、気管支喘息や脂質代謝の改善もみられた。顔面神経麻痺症例では、効果がみられなかった従来型治療後に行った2回の点鼻と点滴で、2週後には顕著な改善が認められた。アルツハイマー型認知症症例では、8週間の点鼻で長谷川式認知機能スコアが17→22と改善し、進展抑制蛋白（ApoA1、ApoC1）が上昇した。Ⅱ型糖尿病症例でも8週間の点鼻で空腹時血糖、HbA1c、インスリン値は低下した。いずれの症例も経過中および1年以上経過した現在でも本治療に関連すると考えられる有害事象はみられていない。幹細胞セクレトーム治療は侵襲が少なく、在宅でも実施可能な簡便な方法であり、全身疾患に対しても適応になる可能性がある。

【略歴】

東京医科大学卒業後、札幌医科大学、国立がんセンター等で内科（呼吸器内科/腫瘍内科）、抗加齢医療、再生医療、免疫医療などの臨床や研究活動を経て、2023年から医療法人社団愛生館ホルムクリニック院長兼北海道再生医療研究所所長

【所属学会・所属団体】

同志社大学生命医科学部アンチエイジングリサーチセンター/糖化ストレス研究センター
Research fellow
日本内科学会 認定医
日本抗加齢医学会 専門医
国際細胞学会 Cytopathologist
月経血幹細胞学会 理事
日本抗加齢医学会 評議員
日本再生医療学会 会員
再生医療抗加齢学会 会員
国際集学的治療学会 会員



医科歯科連携再生医療での認知症治療の将来性

医療法人社団 癒合会
東海大学医学部健康管理学 客員教授
遼寧何氏医学院 客員教授
高輪クリニックグループ代表 医師、歯科医師、医学博士
東京大学分子定量研究所連携講座開設企業
(株)医道メディカル 代表取締役社長
陰山 泰成
(Yasunari Kageyama)



【要旨】

認知機能障害は超高齢社会における重要な医療課題であり、患者数は今後も増加が予測される。現在の標準治療は薬物療法や認知リハビリテーションが中心で、アミロイド β を標的とする抗体医薬も登場しているが、これらは疾患の進行抑制を目的とした治療であり、神経細胞の再生を目的とするものではない。そこで当方では、患者本人の細胞を用いて組織の修復・再生を目指す再生医療に着目し、自己頬脂肪由来幹細胞を用いた治療の提供体制を整備した。採取組織は連携する細胞培養加工施設(CPC)において、再生医療等安全性確保法および関連法令・指針に基づき培養・品質管理・安全性確認を行い、品質試験後、医師の適応判断のもと患者本人へ投与する。自家細胞のみを用いる点が特徴である。また医科歯科連携により、歯科医が口腔内から頬脂肪を採取し、培養から投与まで行う一連の診療体制を構築した。今後は大学・研究機関・医療機関との共同研究を推進し、安全性を最優先にエビデンスの蓄積と医療の質の向上に取り組む。

【略歴】

1987年3月 福岡県立九州歯科大学 卒業
鶴見大学歯学部 歯科麻酔科勤務
2001年3月 東海大学医学部 卒業
愛知医科大学救命救急科 勤務
2012年2月 医療法人社団癒合会 理事長
東京医科歯科大学整形外科 勤務
2009年4月 岐阜大学医学部大学院救急救命科 勤務
2014年3月 岐阜大学医学部大学院 修了
2020年10月 品川メディカルモールセンター長
2022年4月 東海大学医学部 客員教授
2023年10月 高輪医院銀座 開院
2025年8月 東京塔医院 開院
2025年10月 遼寧何氏医学院 客員教授

【所属学会・所属団体】

日本総合健診医学会 専門医・審議員
日本人間ドック学会 専門医
日本再生医療学会
その他複数



一般社団法人
国際抗老化再生医療学会
World Academy of Anti-aging & Regenerative Medicine

脂肪移植による抗加齢医療・美容医療の未来

AND美容外科 代表医師
城本クリニック 特別指導医
田中 真輔
(SHINSUKE TANAKA)



【要旨】

脂肪移植は再生医療の一つである。脂肪幹細胞は脂肪組織1ccあたり $1 \times 10^3 \sim 10^5$ 個存在する。つまり脂肪移植と同時に脂肪幹細胞移植も行うのと同様である。脂肪組織は採取が容易であり、つまり脂肪幹細胞の確保も容易なのである。また脂肪幹細胞培養による幹細胞移植に比べ安価、迅速である。脂肪組織の生着率は脂肪細胞、脂肪幹細胞、成長因子等の相互作用で変動する。特に、脂肪細胞のダメージを最小限にする事である。

【目的】

脂肪組織移植を若返りや豊胸、豊臀、外傷や熱傷後の瘢痕拘縮改善などに行った症例を検討する。

【方法】

腹部や大腿から吸引で脂肪を採取し高性能特殊フィルターバッグ(PureGraft)を使用し純粋な脂肪組織を収集する。脂肪注入量は部位により1箇所の注入量を0.02ccから0.3cc程度を細く層を換え分散注入する。瘢痕組織下に注入する場合は鋭針で瘢痕部のサブシジョンを行ってから注入する。

【結果】

ほとんどの症例で満足な結果であった。豊胸の症例に限って言えば術後ある期間成長する症例が多くみられる。

【考察】

脂肪移植による抗加齢・美容医療は術後の仕上がりはスカーレスであり、かなり満足度は高い。生着率については手術手技向上によりほぼ克服している。この術式は結果を客観的に評価でき、今後さらに期待できる治療法である。

【略歴】

1993年 九州大学医学部 卒業
九州大学付属病院耳鼻咽喉科頭頸部外科 入局
1996年 久留米大学附属病院形成外科 入局
2004年 済生会二日市病院形成外科 部長
2005年 学位取得
2008年 リッツ美容外科東京院 副院長
2013年 城本クリニック新宿院 院長
2024年 城本クリニック新宿院 非常勤勤務
2025年 AND美容外科 代表医師

【所属学会・所属団体】

日本形成外科学会専門医(JSPRS)
日本美容外科学会専門医(JSAPS)
日本美容外科学会専門医(JSAS)
The international Society of Aesthetic Plastic Surgery(ISAPS)
麻酔科標榜医



一般社団法人
国際抗老化再生医療学会
World Academy of Anti-aging & Regenerative Medicine

1. 座長の先生方へ

担当講演の開始 15 分前までに、「次座長席」にご着席ください。

2. 演者の先生方へ

- 1) 講演は全てパソコンでの発表となります。
- 2) PC データ受付（会場同フロア別室）にて講演データの動作確認をお済ませの上、ご講演の15 分前までに会場の「次演者席」にご着席ください。
- 3) 発表スライドの操作はご自身でお願いいたします。
- 4) 講演時間は12 分、質疑応答は 3 分です。

3. データ受付について

- 1) ご講演の 30 分前までに、PC データ受付（会場同フロア別室D503）で試写を完了させてください。
- 2) 発表データをご提出いただいた場合には、発表終了後、事務局にて責任を持って削除いたします。

4. メディアの持ち込みについて

- 1) 発表データは USB メモリでお持ちください。
 - ① CD、DVD 等につきましては受け付けできませんのでご注意ください。
 - ② 不測の事態に備えて、必ずバックアップデータをお持ちください。
- 2) OS・アプリケーションは以下を使用します。
 - ・ Windows11
 - ・ Microsoft PowerPoint 2024
- 3) Mac で講演データを作成された方は、ご自身のパソコンをお持ち込みください。
- 4) フォントは Windows に標準搭載されているものをご使用ください。
(MS ゴシック、MSP ゴシック、MS 明朝、MSP 明朝、Times New Roman、Arial など)
特殊なフォントの使用は代替フォントに置き換えられ、レイアウトが崩れる可能性があります。

5. 動画音声を使用される方へ

- 1) 動画、音声を発表で使用される場合は、必ず PC データ受付にてお申し出ください。
- 2) Windows 11およびWindows Media Player11 の初期状態に含まれるコーデックで再生できる動画ファイルをお持ちください。（動画ファイルは MP4 形式を推奨します）
- 3) 動画ファイルを使用される方は、不具合が生じることがございますのでバックアップ用としてご自身の PC もご持参ください。

6. PC 本体を持ち込まれる方へ

- 1) PC データ受付にて外部出力および PC 設定の確認の後、ご自身で PC 本体を会場内にお持ち込みいただき、発表時にPC オペレーターにお渡しください。
- 2) 会場のプロジェクターへは HDMI 端子での接続となります。HDMI 以外の接続はお受けできません。PC に HDMI 端子がついていることをご確認の上、付いていない場合は接続用の変換ケーブルをご準備ください。
- 3) AC アダプターをご持参ください。
バッテリーのみでの駆動はトラブルの原因となる可能性があります。
- 4) スクリーンセーバーやウイルスチェックならびに省電力設定は解除した上でお持ち込みください。
- 5) 念のため、発表用データのバックアップをご持参ください。





株式会社 細胞治療技術研究所



一般社団法人 クリルオイル振興協会



株式会社 玄米酵素



株式会社 東京ミライズ



株式会社 RMDC



ステムリンク 株式会社



株式会社 医道メディカル



株式会社NBC International Japan



一般社団法人 国際次世代再生医療研究会



株式会社 クレア



株式会社 ビューウェル

企業展示・協賛



株式会社 エー・アイ・システムプロダクト

企業展示・協賛



ADRセラピューティクス 株式会社

共催



一般社団法人 予防医療研究協会

医信株式会社

医療従事者と受診者の双方が安心し、満足できる環境を提供することを使命として、幅広いサービスを展開しております。受診のコーディネート、医療通訳、診療報告書の翻訳、再生医療など、多言語・多文化に対応した支援を行っています。また、医療渡航支援企業として、外国人受診者に対して質の高いサポートサービスを提供し、日本で安心して医療サービスを受けられる体制を整えております。さらに、医療機関との円滑な連携や、患者様のご要望に応じた医療施設のご提案など、きめ細やかな支援も行っております。



Wismettacフーズ株式会社 ナチュメディカ事業部

ナチュメディカは、医療機関専売サプリメントの企画・開発・販売を行うヘルスケア企業です。エビデンスに基づく製品開発を通じて、医療従事者と連携しながら患者様の健康維持・増進をサポートしています。機能性素材や先端技術を活用した高品質な製品を提供し、予防医療および健康寿命の延伸に貢献してまいります。



株式会社グラントイーワズ

創業20年、美と健康をテーマに、補正下着、化粧品、栄養補助食品等、各種商品を開発、提供しています。私たちの商品は、素材にこだわり、身につける方の心に寄り添ったボディウェアづくりを心がけることを基本としています。昨年は、銀座にビューティークリニックをオープンし、予防医学として再生医療にも取り組んでいます。



株式会社クレア

美容医療からスポーツリカバリーまで、多岐にわたる分野に最新で高度な機器やサービスを提供。安全性と効果を重視し、唯一無二な経験と知識で業界のニーズに合わせた機器・サービスなどの提供を常に心がけています。*LDM機器 *水素吸引機など



グロリアス株式会社

再生医療・健康食品・スキンケア・健康シューズ・ウェアを通じて、「健康」と「美」の新しいスタンダードを創造する次世代型ヘルスケア企業です。「人と技術、そして自然の調和」を理念に、科学的根拠に基づいた安全性と、持続可能な社会への配慮を融合し、人々の生活に寄り添う製品とサービスをお届けしています。



株式会社ケイ・エス・ジャパン

23年間の美容・薬剤研究、カウンセリングの実績を持つ弊社代表が『すべての人に自然な健康と自分らしい輝きをもつ美を叶えたい』という願いから生まれた会社です。弊社では、Blanche Blancheという化粧品のオリジナルブランド展開をおこなっています。

KS JAPAN

株式会社セラバリューズ

世界中の人々の、健やかで質の高い生活を実現するために、独自の技術による先進的な機能性食品原料や製品の開発、提供および販売しており、多くの医師の方にセラクルミンの製品をご紹介頂いております。



トキリン株式会社

トキリン (TKILYN) 株式会社は、生命科学と最先端テクノロジーを融合し、新たなエイジングケアの可能性を追求するグローバル企業です。Made In Japanの安心、安全のものづくりで、エイジングケアに特化したサプリメントとスキンケア商品のブランドBIOAGENを展開しております。「心豊かに 健康に 美しく 笑顔溢れる未来」を理念に掲げ、年齢や環境にとらわれない真の美しさをサポートする製品・サービスを提供しています。



日楓堂（海南）国際貿易有限公司

日本の良質な製品を中国で販売しています。
特に海南島の税関特区にて扱う際には日本の製品は人気があります。化粧品、健康食品（サプリメント）を仕入れています。国際抗老化再生医療学会に在籍されている専門家の先生が監修された製品を、今後も広く販売できればと思います。



株式会社日本薬店

健康食品の研究、開発、販売をメインに展開。
発育をサポートするお子様のサプリメントや、製薬会社様と共同開発した医薬品・健康食品も豊富に取り扱い、ご提供しております。



株式会社ビューウェル

社名である Beauwell は beauty & wellness からの造語です。多くの人の健康寿命を延ばすこと、美の創造により人々が生きる活力が増していくこと、ビューウェルができること全てに挑戦していきます。
化粧品：バストールブルー美容液や各種サプリメントを販売しています。



杭州禾本木健康管理有限会社

杭州禾本木健康管理有限会社は美容、医療、アンチエイジングを3本の柱として展開するグループ企業です。中国、米国、日本の複数の大手病院、美容関連協会、医学研究所、再生医療研究所など多くの専門機関と連携し、安全かつ専門的な個別化医療及び健康、美容、アンチエイジングサービスを提供しています。



株式会社マインドシェア

再生医療を提供している医療機関を、簡単に探せるポータルサイト「再生医療サーチ」を運営しております。
月間10万PVを超えており、一切の作業負担もなく月に1万円～SEO対策を行なえ、半年間で70件以上の問い合わせに繋がっております。
再生医療業界、再生医療に携わる医療機関さまに貢献してまいります。



アウトバーン株式会社

株式会社バイオミメティクスシンパシーズ

株式会社コスモクオークインターナショナル

理事長	佐藤 茂	日本医科大学 中央電子顕微鏡施設 元講師
執行理事	劉 効蘭	医療法人社団みき会 理事
理事	太田 裕貴	東京慈恵会医科大学総合医科学研究センター 再生医学研究部 准教授
理事	末武 信宏	さかえクリニック 院長
理事	谷川 啓司	バイオセラクリニック 院長
理事	李 卿	日本医科大学 臨床教授
理事	根深 研一	医療法人社団研裕会 理事長
理事	斎藤 糧三	齊藤クリニック 院長
理事	平良 茂	医療法人白寿会 理事長 ハートフルクリニック 院長
理事	元田 剛	ハートワン動物病院グループ 代表
理事	ガジザデ・モハマッド	日本医科大学老人病研究所分子病理学部門 元准教授
理事	金山 光明	池袋光明クリニック 院長
顧問	Leihong (Flora) Xiang M.D., Ph.D.	Professor, Department of Dermatology, Huashan Hospital, Fudan University
顧問	Qiong Zhao M.D., Ph.D.	Concurrently the Shulan International Medical College of Zhejiang Shuren University Vice Dean
監事	月岡 秀彰	日本鍼灸協会 理事
事務局長	野村 尚伸	





美と健康を、毎日の習慣に。

4つのアプローチで、あなたらしい健やかな毎日を。

For your vitality



フローラプラス

45.0g (250mg×180粒)



フローラプラス
美腸サポート

厳選3種の善玉菌を配合。
腸内環境と毎日の元気をサポート。



リポトリム

45.0g (250mg×180粒)



リポトリム
ボディメイクサポート

キトサン配合で食生活をサポート。
無理なく続ける毎日の習慣に。



デトキシプラス

45.0g (250mg×180粒)



デトキシプラス
すっきり巡りケア

内側から整え、軽やかな毎日へ。
健やかな巡りと美しさをサポート。



PQQ+γオリザノール

21.0g (350mg×60粒)



PQQ+γ-オリザノール
冴えわたる毎日へ

PQQ+γ-オリザノール配合。
頭のコンディションをサポート。

株式会社ビューウェル

問い合わせ・ご注文

メール: info@beauwell.net お電話: 03-6205-4571

オーガニック製法で精製された 高品質マグネシウム

すべての健康と美はミネラルから！
洗練されたミネラルサプリで健康的な毎日を

栄養機能食品 (マグネシウム)

Dr.Habit M+

ドクターハビットエムプラス

内容量: 50ml | 定価: 4,980円 (税込)



各機関の厳しい基準に認められています



FDAの栄養補助食品規制
に基づく最新のGMP認証。



米国農務省承認の有機材料審査
機関(OMRI)によるオーガニック
認定。



アメリカの食品医薬品局 (FDA)
より与えられる安全基準合格証。



「遺伝子組み換え製品を使用して
いない」等の要件を満たしている
評価・認定。

製品紹介はこちら



一般社団法人
予防医療研究協会
Preventive Care and The Health Coach Revolution

主催：



一般社団法人

国際抗老化再生医療学会
World Academy of Anti-aging & Regenerative Medicine

共催：



一般社団法人

予防医療研究協会
Preventive Care and The Health Coach Revolution

連絡先

一般社団法人国際抗老化再生医療学会
事務局

〒135-0064 東京都江東区青海2-4-32タイム24ビル18階

03-6205-4344

info@waarm.or.jp